

(3) 望ましい学習習慣の定着

ア 学習習慣の確立に向けた取組

計画、テスト、分析、練習のサイクルをとおして、学力向上に向けて生徒が授業と家庭学習を往還し、主体的に学習に取り組むことを目的として取り組んでいる。

<「けてぶれ」について>

- 「け」…計画（その日の学習の計画・目標）
- 「て」…テスト（自分の力をためす・問題を解く）
- 「ぶ」…分析（間違えた原因・分からなかった原因を考える）
- 「れ」…練習（間違えた・分からなかった部分を克服するために練習する）

イ 学力向上に向けた生徒の主体性を育む取組について

- ・学習常任委員会による学習習慣の定着をねらいとした学習コンクールに向けた「けてぶれ週間」などの取組
- ・文化常任委員会による読み聞かせやおすすめの本を紹介するなどの取組

2 安心して学べる居場所である集団の確立

不登校生徒が年々増加傾向にあることから、生徒の実態に応じた学習支援ができるよう、学びの保障に向けた取組を行っている。

(1) 「不登校プロジェクト（FP）」の立ち上げ

全校で組織的に対応することをねらいとし、「不登校プロジェクト（FP）」を校内に立ち上げ、指導部1名と各学年1名の計4名の教職員で対応できるようにしている。

(2) 「別室登校の教室」の設置

不登校の生徒が登校した際の生徒の状況に応じて、別室での対応ができるよう、空き教室を別室登校用の教室として活用できるようにしている。

3 「時間外勤務の縮減」に向けて

「月2回の定時退勤日の設定」や「部活動活動方針の周知・徹底」などの取組と、「業務の見直しや精選」等の取組をとおして、働き方改革を推進している。

(1) 「部活動に係る活動方針」の周知・徹底

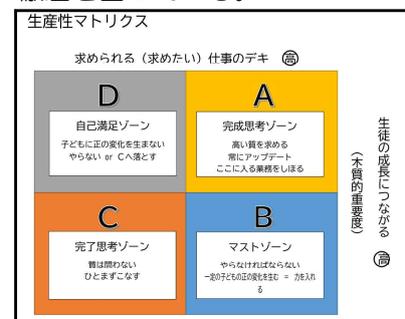
部活動方針を策定し、「適切な運営のための体制整備」、「効率的・効果的な活動推進のための取組」、「適切な休養日等の設定」、「生徒のニーズを踏まえた環境の整備」、「学校単位で参加する大会等の見直し」などを全教職員で確認し、取組の徹底を図っている。

(2) 月2回の定時退勤日

部活動のない職員会議日を一律定時退勤日とし、さらに個人による定時退勤日を設定し、月別行事予定表に「定時退勤」の欄を設け、名前を記載し、取組の見える化を図っている。

(3) 業務改善に係る取組

自校の業務改善に当たっては、効率的に業務内容を整理し、見える化できるよう「生産性マトリクス」を活用している。



【生産性マトリクス表】

III 実践の成果と今後の課題

<成果 (○) と課題 (●)>

- 「授業づくりのポイント」を明確にするとともに、生徒による授業評価の改善を図ったことにより、日常の授業改善に向けた取組が一層推進された。
- 「けてぶれ」の取組により、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した生徒の割合が全道、全国を上回る成果につながった。
- 「授業づくりのポイント」にICT機器の活用を示したことにより、日常的なICT機器の活用による授業改善につながった。
- 全国学力・学習状況調査結果分析から、小・中連携の取組を踏まえた日常の授業改善等に取り組む必要がある。
- 時間外勤務の時間を全教職員が月50時間以内とすることを目標に、一層、業務改善を推進し、子どもと向き合うの時間や教材研究の時間を確保する必要がある。
- 「不登校生徒の学びの保障」や「コロナウイルスの感染拡大に伴う休校」に向けた1人1台の端末の持ち帰りについて教育委員会と連携し、推進する必要がある。